

都留文科大学

同窓会報

第32号会報

発行 都留文科大学同窓会事務局
責任者 日向哲男
山梨県都留市田原3-8-1
☎ 0554-43-4341



都留文科大学
同窓会

「大学のさらなる発展と躍進を願って」

都留文科大学同窓会会長
亀田 孝夫



私は、昨年8月の同窓会総会において、本学同窓会の第13代会長として推薦・承認をいただきました。3万人を超える大学の同窓会長として、同窓会の目的である「大学の発展への寄与」と「会員相互の親睦」の実現に邁進いたしますので、皆様方のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

さて、現在の大学を取り巻く環境には、グローバル化、経済構造の転換、正規労働の減少、少子高齢化等大変厳しいものがあります。日本の大学は、大学間競争が展開され、「氷河期から淘汰の時代」に転換していると言われます。加藤祐三学長が、平成25年度末をもって学長任期を満了し勇退するに伴い、学長選考が行われ、お二人の学長候補者からは、教員養成系としてのブランドの強化、中学校免許教科の増設、教育学部構想、グローバル人材の育成（国際交流の強化）等の本学に対する将来の方策が提言され、その具現化が喫緊の課題と考えます。

同窓会は、全国で36都道府県支部が設立され、毎年4月に全国理事会、隔年の8月に全国同窓会総会を開催しています。理事会後の「在学生との懇話会」、5月の「模擬面接試験体験会」は、学生と同窓会会員が交流できる貴重な機会であると同時に、教員採用試験合格率を高める取組となっています。大学は創設以来、教員養成系大学として高い実績をあげ、卒業

生の多くが教職に就いていますが、近年では一般公務員や企業に就職する学生も増えています。教員志望者だけでなく、公務員・企業就職を目指す学生への支援が課題となっていますので会員のご協力をお願いします。

昨年度の同窓会報に国内外で活躍する同窓生が掲載されました。エベレスト女性最高齢登頂者の渡邊玉枝さん、ロンドンオリンピック400mリレー日本代表の佐野夢加さん、武蔵野短期大学教授の松本多加志さん、そして、大変悲しい出来事でしたが、シリアで紛争取材中凶弾に倒れた国際ジャーナリストの山本美香さんです。同窓会報では、様々な分野で活躍している同窓生をお伝えしていますが、それは社会へ踏み出す後輩学生が夢や希望に向かって頑張る原動力になっていると考えます。

同窓会総会では、「東北で支部設立がなされていない県の支部設立を促すための理事を設ける」ことを決定しました。総会へは、東日本大震災の災害復興に懸命に取り組んでいる宮城県支部から15名が参加下さり、沖縄県支部からも参加をいただきました。ワンダーフォーゲル部OB会創立50周年記念式典が、8月、大学で127名の参加を得て盛会裡に開催され、私も出席し懇親を深めさせていただきました。東京支部総会・長野県支部総会へも出席させていただき、諸先輩や後輩の大学への熱い思いに触れ、都留文科大学及び同窓会の今後の発展を確信いたしました。私は、「学生が主人公の魅力あふれる大学」という本学法人化の目指す理念の具現化に向けて、同窓会の力を結集し全力で取り組んで参りますので、皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

都留文科大学同窓会役員

役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	
名誉会長	加藤祐三	学長	茨城支部長	宮内健治	S52国	鳥取支部長	金田吉次郎	S45初	山梨県理事	一瀬英治	S46国	
会長	亀田孝夫	S51英	群馬支部長	齋木雄造	S52国	島根支部長	小藤 貢	S44初		若林四郎	S31商	
副会長	桐井幸雄	S32初	埼玉支部長	渡邊哲朗	S39初	岡山支部長	原田直樹	S45国		小田切道之	S43初	
庶務会計	木浦憲一	S46初	千葉支部長	川名和則	S51英	愛媛支部長	谷川忠孝	S42初		作地 眞	S46国	
	原 喜雄	S53初	東京支部長	松本多加志	S44初	徳島支部長	小倉健司	S54英		奥脇隆樹	S45初	
	日向哲男	S51初	神奈川支部長	板倉忠臣	S30初	高知支部長	清岡典代	S40国		赤松金次郎	S35商	
事務局次長	小幡哲明	S56国	山梨支部長	田中克己	S52初	長崎支部長	西田正人	S40初		高橋義美	S53初	
	河端雄一	S63初	静岡支部長	清水 猶	S42国	熊本支部長	永田好文	S47初		顧問	奥秋順作	S31初
	藤本信夫	大学課程部	長野支部長	堀内敏明	S54初	宮崎支部長	荒巻孝行	S35初			志村武男	S31商
鈴木 守	S55初	岐阜支部長	山本吉朗	S40英	鹿児島支部長	本田武久	S43国	後藤 敬			S33商	
浜欠亮吉	S39国	新潟支部長	池原栄一	S50初	沖縄支部長	金城宏安	S33初	佐藤唯一			S32初	
外川正純	S46英	富山支部長	澤井 隆	S48国	北海道理事	山本洋嗣	S56国	佐藤英雄			S38国	
原田裕太	H7初	石川支部長	西田良治	S49国	東北ブロック	鎌田 清	S47初	輿石 東	S32初			
監事	淡野香百合	S39初	福井支部長	西出健一	S50初	兵庫県理事	赤穂榮一	S47初	山縣永良		S39国	
	相川洋子	S52英	愛知支部長	岩重佳子	S51英	山梨県理事	水上昭夫	S39初	勝俣武男		S41初	
北海道支部長	加藤佳栄	S56英	三重支部長	中矢泰之	S43国		松土仁郎	S44初	永田清一		S46国	
岩手支部長	堀籠智志	S53国	奈良支部長	瀧川佳市	S32初		原田孝雄	S63初	小林孝次		S46英	
山形支部長	鈴木雄二	S55国	大阪支部長	泉川芳夫	S49初		丸山一彦	S52初	千野文雄	S48英		
宮城支部長	菅野俊雄	S55国	兵庫支部長	渋谷訓生	S41英		依田一秀	S50初				
福島支部長	大竹豊紀	S39初	広島支部長	小谷桂司	S44初		一之宮英文	S51初				

学長退任にあたって



都留文科大学学長

加藤 祐三

全国の同窓会、同窓生のみなさん、お元氣でご活躍のこととお慶び申し上げます。

私の学長任期は本年3月までなので、これが最後の挨拶になります。みなさんのご支援で東日本大震災後の復興支援に勢いがつき、また入試と教員採用のご支援等により、大学と同窓会との一層の好循環が生まれています。

本学は公立大学法人となり、経営の責任を持つ理事長と、教育研究の責任を持つ学長(=副理事長)が別人である「分離型」を採用し、来年度は第1期6年の最終年に入ります。運営状況については、本学ホームページにある学長ブログ欄の中の「法人化4年の成果」(2013年3月4日)等をご覧ください。

理事長と学長の両名に事務局長と両副学長を加えた5名で常任理事会を構成し、予算決算をはじめとする重要事項を決めています。昨年、西室陽一理事長が退任され、大谷哲夫理事長が就任されました。教育研究の責任者である学長には福田誠治副学長が選任され、来年度から就任します。顔ぶれは変わりますが、これまで築き上げてきた成果と路線の延長上に新たな展開がなされると思われまます。

また昨年11月の都留市長選挙で、16年つとめられた小林義光市長が勇退され、「成長戦略」を掲げる堀内富久市長が誕生しました。

3年前の春に「4つのプロジェクト」を立ち上げ(学長ブログ「4つのプロジェクト」2011年7月9日)、(A)入試戦略、(B)教職課程・教職大学院、(C)カリキュラム改定、(D)センター機能の強化再編を議論し、可能なものから実施に移し、一定の成果を得ました。

(D)のうちキャリアサポート室をキャリア支援センターに格上げ、専門員を増員、内装も一新(学長ブログ「キャリア支援センター」2012年5月15日)、多くの学生が立ち寄り、就職率も向上、嬉しいニュースが並びました。

少子化と保護者家庭の収入減により、全国的に学生確保競争が激化、本学は受験者数の漸減にとどまり、夏と秋のオープンキャンパスは好評で参加者が増えました。本学の教育の質の高さは、卒業論文(卒業研究、卒業演奏等)を必修とする長い伝統にも見られ、卒業生に高い能力と大きな自信を与えています。

今年度のビッグニュースは、なによりも地方交付税交付金の補正係数の見直しによる交付金の倍増です。その仕組みはいささか複雑ですが、概略は学長ブログ「人文科学系学部の公立大学」(2013年8月22日)に書きました。

これに伴う措置として奨学金(給付型)・遊学奨励金の制度を創設し、来年度生から適用します(大学のホームページに掲載)。また学長ブログ「遊学のすすめ」(2013年12月12日)もご覧ください。つづく第二弾の施設整備も始まります。

全国から集まる学生たちは、先輩諸氏の支援を心強く思い、頼りにしています。教職員、学生、都留市民ともども、大学町の誇りを胸に、一層の努力を重ねる所存です。

平成25年度 都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数
1	北海道	586	13	東京都	1,263	25	滋賀県	101	37	香川県	141
2	青森県	215	14	神奈川県	1,223	26	京都府	239	38	愛媛県	256
3	岩手県	490	15	新潟県	612	27	大阪府	475	39	高知県	76
4	宮城県	560	16	富山県	569	28	兵庫県	813	40	福岡県	223
5	秋田県	224	17	石川県	564	29	奈良県	93	41	佐賀県	68
6	山形県	313	18	福井県	491	30	和歌山県	189	42	長崎県	198
7	福島県	698	19	山梨県	3,462	31	鳥取県	158	43	熊本県	182
8	茨城県	412	20	長野県	994	32	島根県	226	44	大分県	104
9	栃木県	449	21	岐阜県	506	33	岡山県	369	45	宮崎県	146
10	群馬県	318	22	静岡県	1,325	34	広島県	479	46	鹿児島県	331
11	埼玉県	536	23	愛知県	1,163	35	山口県	170	47	沖縄県	191
12	千葉県	572	24	三重県	363	36	徳島県	358	48	外国、不明等	7,153

■ 支部設立済都道府県

合 計 30,647

平成25年4月1日現在

「教える」なかで 教えられたこと

都留文科大学退職教員
初等教育学科

森 博 俊



私がこの大学に着任したのは1981年の国際障害者年の時でした。そして昨年12月に障害者権利条約が国会で承認されたので、この間の大きな動きの時期を障害児教育担当教員として仕事をしてきたこととなります。小・中学校の教師をめざす学生がなぜ障害児教育について知る必要があるのか、しばしば下手な説明を繰り返してきましたが、時代の動きはすでにそんな説明のいらぬ現実をつくってきました。

しかし「何を教えるのか」という問題は、教職課程のなかでは周辺的な科目でしたし、また免許は取得しても障害児教育とは無縁になるであろう学生も少なくないなかで、やはり大きな問題でした。

当初は障害児教育の免許課程を念頭においた入門

的な内容を考えましたが、学生の要求とはあまりかみ合いません。基本的には、教育の本質を深めるための切り口として重要だとか、子どもの発達や学習のプロセスを確かめながら教育活動の意味をとらえ直す契機にするなどと位置づけてきました。しかし、どこか自分でもしっくりいかない感じを引きずっていたように思います。

ですから障害児教育に関心を寄せ、卒論やゼミ、「子ども会」などの自主的な活動に参加してくれる学生たちは私にとって大きな支えでした。積極的に現場と関わり行動する、ストレートにわからないことを尋ねてくる、私も見落としていた本や外部の講演が話題になるなど、いろいろなところではっとさせられたり、「やる気」を奮い立たせてくれたりしました。専門的知識や技能は後からくっついてくるもので、内発的に問題に関わるセンス、そしてそういう自分に手応えを感じ考えようとするセンスが大切なのだと思われ、学生たちに教えられてきたように思います。

三十数年間、直接的・間接的にお世話になった同窓生(かつての学生)のみなさんにあらためて感謝したいと思います。新しい人生のステージが始まりますが、ゆっくり歩きながら自分の生活スタイルをみつめていきたいと考えています。お元気で。

都留での三十数年

都留文科大学退職教員
英文学科

稲垣 孝 博



私は1977年にドイツ語教師として都留に赴任しました。そのころはまだ1号館しかなくて、研究室も事務室も図書室も狭い館内に同居していました。学生食堂はまさにバラックのような建物でした。現在の大学キャンパスを見渡すと夢のようです。しかし当時の学生諸君は、意気盛んでした。こんな大学来たくて来たわけではないと言いながらよく勉強したように思います。(そんな豪傑肌の学生がよくいました。)

赴任当時の思い出としては、ワンダーフォーゲル部の学生と三つ峠で岩登りの練習をしたのが印象深く残っています。その後のコンパでどんぶり酒を飲むパンカラ振りに圧倒されました。いまはあの野趣に満ちたエネルギーが懐かしく思い出されます。

1997年からは英文学科でゼミを担当して、毎年10人前後の学生の卒論をサポートしてきました。自分

の専門を押し付けるわけにはいかなないので、(ユートピア文学と比較文学という大枠は設定しましたがそのなかで)ひたすらゼミ生自身の興味に寄り添い、それぞれが自分のテーマで卒論を仕上げるのを補助してきました。私自身も学生に導かれてツールキンを精読するようになりました。毎年何人かは自分への確信を得て卒業していったのは、私にとっても幸せな体験でした。

この10年ほどは、外国語教育研究センターの創設と育成に力を尽くしてきました。本学の外国語学習環境は劣悪だったので、自分が何とかしなければという「使命感」のようなものを感じて努力してきましたが、なかなか理解が得られず満足するところまで到達できませんでした。

三十数年間、その時その時で精いっぱい努力してきたつもりですが、教育、研究、大学運営への貢献のどの分野でも「やり残し感」に悩まされています。しかし何事にも期限があります。私は都留を卒業します。学生の皆さんがほぼ4年間を都留で過ごして巣立っていくのと同じように(笑止な願望ですが)、私は三十数年間の都留での体験をもとに、残された人生の期間、健康が許してくれる限りまだ何事かに挑戦してみようと思っております。

私を育ててくれた 都留文科大学

都留文科大学退職教員
社会学科

畑 潤



私が都留文科大学の存在をきちんと意識したのは、社会教育学担当の非常勤講師になったときのことです。それまでは「都留文科大学」は私にとり未知の世界でした。非常勤講師に続き、本学の専任教員として着任しましたが、所属する社会学科は創設三年目に入ったばかりで、学生も教員も若々しい気分です新しい学科の建設に向かっていました。このようにして私も社会学科を育てていく一員になったわけですが、一年も経たぬうちに私はこの小さな大学そのものが大好きになりました。学生たちが全国から集まってくることに先ず驚きましたが、その学生諸君にしみじみとした愛着を感じるようになりました。都留文の学生は、全体としては勤労階層の子弟とってよいでしょう。それぞれの出身地の生活と文化を背負いながら大学生活を送り、再び地域生活の中堅

的な担い手として戻っていく、そのような若者たちと成長の時間を共にするということの大事な意味について思いめぐらすようになりました。

大学事務局と大学図書館の空気もよく、きびきびと献身的に対応してくださる職員、司書の方々に、ほんとうに支えられましたし、その働きに感じ入ることもしばしばありました。

こじんまりとした大学で教授会は一つですから、初教・国文・英文・社会学、そして比文という諸学科を超えて、教員はいつも全学の運営と発展に心を向けてきました。教授会をコアにして率直で激しい論議を重ねてきましたから、お互いの理解は深いものでした。そしてそのような教授会の一員であることに、私は心からの喜びと誇りを感じてきました。素直な気持ちで振り返りますと、「社会学科の一員」というよりは「都留文科大学の一員」という気持ちが私の基本にあり続けたように思います。

実は在職の最後の年になり、『都留文科大学事件の記録』(遠山茂樹・森川金寿編 盛田書店 1969年)をきちんと読み、先人たちの都留文科大学建設の苦闘の歴史に改めて目を向けることになりました。そして私を育ててくれた都留文科大学の値打ちの本質を、いつそうつよく考えるようになっております。

活躍する同窓生

はたらくこと

八王子市役所
産業振興部勤務

富澤 知恵子

(S63年度初等教育学科卒業)



「はたらくこと」今、私が携わっている仕事です。平成元年に東京都の八王子市役所に入所。初めての職場は市の広報紙を作成する広報課、次のリサイクル推進課では今では浸透しているリサイクルの立ち上げを行い、国民健康保険課では税の徴収を、経営監理室では事業仕分け的行政評価を行ってきました。

市役所は5～10年サイクルで異動があり、そのたびに転職したかのように、全く違う分野の仕事をしなくてはなりません。なので年齢を重ねるたびに新しい仕事を覚えるのに苦労しています。

そして現在は、産業振興部産業政策課という部署で学生から高齢者までの就労支援の仕事をしています。

リーマンショック後に比べると就職内定率が良くなってきたとは言われていますが、それでもまだまだ、今の大学生や若者の就職が厳しいことを実感しています。

高3・高2・中3の3人の息子を抱える母親としても、本当に人ごとではありません。

○現在の就活について

大学全入時代と言われ、昔と違って大学に進学したからといって必ず就職できるわけではなく、また一流大学に行っても就職できなかつたり、離職して求職活動に悩んでいる人を目の当たりにしています。こうなると、学生時代に「進学高校に入りたい」「有名大学に合格したい」「一流企業で仕事をしたい」という目標は何のためだったのかなと思ってしまいます。

その原因のひとつに、身近で様々な職業に触れる機会、知る機会が減っていることがあるのではないかと思います。子どもたちは、テレビやネットで知った「会社」しか知らないまま育つので、就職活動をするときに、自分で知る範囲での有名企業や一流企業にエントリーをしつづけ、何十社、何百社から内定をもらえず、自分が社会から否定されてしまったと思うってしまうのです。そして就職活動を諦めてしまう若者もいます。



でも、世の中には3万種類もの職種があります。また、八王子市内には2万社もの事業所があります。逆に八王子市内

の事業所で若者が欲しくても採用できていない状況もあります。このようなミスマッチを防ぐためにも、また今の就職活動から脱却するためにも、今、試行錯誤しながらさまざまな取り組みを行っています。

○小・中学校からの就活

そのうちのひとつが「小・中学校での職業講演」。この会報を読んでいる多くの方が、学校の先生をやっていらっしゃると思いますので、小・中学校に関係した取り組みを紹介したいと思います。

八王子市内には小学校が69校、中学校が37校、ちなみに大学・短大などは21校あり、学園都市と言われています。そういった各小・中学校へ出向き希望するテーマの講演を行っています。

小学校向けには、多くの職業があるということを知ってもらうことがメインになります。どの職業も大切に、運動会で高学年が行う組体操のピラミッドのように、どれが欠けても崩れてしまう、どの職業も必要なんだという話をしています。また、テレビでやっている「プロフェッショナル」は、身近にもたくさんいて、農家の人が美味しい野菜を食べてもらいたく研究・工夫をしていることも、美容室の方がお客さんに喜んでもらえるように技術だけでなくおもてなしを重要視していることも、全部「プロフェッショナル」なのだ伝えていきます。

中学校では2年生が地域の企業などでの職業体験を行っています。それに備えた「ビジネスマナー」をキャリアカウンセラーの資格を持った職員が行ったりしています。また、地域によっては高校進学率が低い学校もあり、中卒での就職の難しさ、高校などへ進学することでの職業選択が増えることなど、進学の意味を伝える内容の講演をしたりもしています。

また、市内の中小企業の社長さんに講演をしていただくこともあります。中小企業は大きくなれないのではなく、あえて大きくしない企業もあります。中小企業としての役割、方針などのなかで、この先10年、20年、30年とどうやっていくかを考えたうえでそうしているのです。また、中小企業でも世界シェアトップを占める企業もあります。

こうした中小企業のことを知られていないことから、大企業に行けないから中小企業へ・・・という後ろ向きな選択になってしまっているのが現状です。

○はちおうじ発の「就活スタイル」

そういったことから、中小企業とは言わず、「地域の企業」と呼び、「地域の企業」で働くことを「かっこいい」と思えるようにしたいのです。

なかなか、「地域の企業」と触れ合う機会がない中で、もっともっと地域のことを知ってもらいたい、そこではたらく人や思いを知ってもらいたい。そして、「地域で働きたい」と思ってもらえるようにしたい・・・。

こんな地道な取り組みですが、将来の子どもたちの就職活動につながっていけば・・・と思っています。目先の進学でなく、将来、人生の大半を占める「はたらく」ことについて、もっと幅広く考えられるような教育が必要なのかなど、今の就職活動に苦しんでいる大学生を見て、また、入社しても離職してしまう若者を見て感じているところです。

活躍する同窓生

星の語り部から 教育行政の世界に

金沢市教育委員会
教育長

野口 弘

(S50年度初等教育学科卒業)



1 星の語り部として

2008年3月14日深夜、私は妻と二人、ケネディ宇宙センターで宇宙に飛び立つ土井 隆雄宇宙飛行士が搭乗するスペースシャトル・エンデバー号を見送りました。NASAの長官と土井宇宙飛行士のご配慮で、射点から約6kmというシャトルから最も近い位置での見送りでした。轟音と閃光を残して飛び立ったシャトルの姿は鮮明に脳裏に残っています。JAXAが展開する宇宙教育指導者研修の講師として誠実に全国を駆け巡ったことへのご褒美だったと思っています。



退職まで、36年間の教員生活でした。この間、台北日本人学校への赴任や、2回の教育行政などを経験しました。教育行政では、金沢市天体観測センターの建設に携わるとともに、館長として天体観望会やプラネタリウムの投映・解説、宇宙少年団の活動などを通して、子供たちを星の世界に誘いました。

宇宙や星は子供たちにとって魅力的な世界です。人類は宇宙や星をめざす中でさまざまな情報を獲得しました。宇宙教育はそうした情報を活かし、いのちの大切さを基本に置いて、誰もが持っている「好奇心」「冒険心」「匠の心」を揺さぶり、それを伸ばす中で、それぞれの夢の実現に向けて、そっと背を押してあげる、そんな所作であると捉えています。私の夢は金沢から宇宙飛行士を育て上げることです。その夢は、金沢市天体観測センター館長時代に取り組み始めた宇宙塾を通して、着実に実現に向かっていくことを嬉しく思っています。

校長時代には、全国小学校理科研究協議会副会長、石川県小中学校長会理事長なども務めました。私を支えてくれたのは、頑固一徹な父が終生示した「誠実であれ」との教えでした。私なりに父の言葉を解釈し、座右の銘を「一会入魂」としています。どんなこ

とも誠実に向かい合い、取り組んでいこうと思っています。

2 「3度目の教育行政」は教育長の重責

59歳で早期退職。2012年4月から金沢市教育委員会教育長に就任しました。金沢市で義務教育の教員が教育長を務めるのは実に20年ぶりです。子供たちのために教員としての経験を活かし、誠実に職務を遂行していく所存です。

現在、日本の教育は大変大きな変革期にあります。教育委員会制度のあり方、土曜授業、教科書検定、英語教育、学力調査結果の公表、道徳の教科化など教育に関する報道を目にしなない日はありません。また、中央の教育改革への対応と同時に、地域でも新しい教育施策の策定・推進や教育課題への対応が求められています。

金沢市では現在、教育振興基本計画の策定、金沢市小中一貫教育の推進、小中一貫英語教育、第三次学校教育金沢モデルの策定、金沢市立中学校の通学区域のあり方の検討、学力向上への取り組み、いじめ防止対策基本指針の策定、特別支援教育の充実、偉人教育などに果敢に取り組んでいます。こうした取り組みでは、金沢というまちが前田家の時代から受け継いできた「伝統」と「革新」が織りなす気風を大切に、金沢の独自性を凝らすことに意を用いています。是非、金沢が発信するさまざまな教育行政施策に注目して下さい。

3 持続可能な世界平和への歩み

昨年5月には中国大連市、9月には台湾台南市を訪問しました。大学で講演を行ったり、市政府や教育関係の方々、学生たちなどと様々な課題について、率直に語り合いました。その中で確認したことは、「次代を生きる子供たちのために、平和な世の中を構築するために、私たち大人が汗を流そう」ということでした。

遅々たる歩みですが、都留文科大学の卒業生として世界に貢献していくことを誓うとともに、大学の更なる発展を念じております。



活躍する同窓生

プロを育てたい

愛知県岡崎市教育委員会
教育長

高橋 淳

(S52年度国文学科卒業)



「岡崎市の教育長を引き受けてもらえないだろうか」という依頼があった時、私は即座にお断りを致しました。

岡崎市は、人口約38万人の中核市で、小学校47校、中学校20校の全67校があります。私はその全てをまとめていく自信もありませんでしたし、そんな器ではないこともわかっていました。何度かお断りをしたのですが、断りきれない複雑な状況がありました。

平成24年11月、教育長就任。多くの方から激励を受けながら、健康に気を付けるように助言されました。なるほどハードな日々の連続でした。朝から晩まで分刻みで組まれるスケジュール。今までお会いしたことがない方たちとの面会や初めて体験する会議の数々。休日もほとんど各種行事への参加が続きました。私のスケジュール管理をしている女性が、「教育長、もうしばらく頑張ってください。これから少しでも休める時間を確保しますから」という言葉に励まされながら1年数か月が過ぎました。

私は、「人間の将来の発展の原動力たり得るものは、人づくり、すなわち『教育』をおいて他にない。」という信念を持っています。優れた人材・人間性の育成がなされなければ、人間社会が存続できないと思っています。レベルの高い教育を提供するためには、志の高い、信念を持った教師が必要です。教師の高い人間性と専門性こそが教育を支えていきます。

幸いこの岡崎においては、教師の情熱、意識レベルの高さは特筆すべきものがあると思っています。岡崎の教師が長きにわたり引き継ぎ、支え発展させてきた市全体の行事を紹介しながら、岡崎の教育を見つめます。

① 中学校総合体育大会

岡崎市中学校総合体育大会の総合開会式は、今年度で57回目を迎えました。市内20校、全ての中学校より選手団と応援団



が集まり開催されます。この開会式では、約2500名の生徒による入場行進が行われます。この規模での入場行進は、全国でも類を見ないものです。母校への誇りと競技に対する強い思いを胸に歩く生徒の姿から、岡崎の教育を見ることができます

② 岡崎のハーモニー

昭和22年、戦後の荒廃したなか、子供たちの心に明るさと希望を持たせたいと願って始まった「岡崎市連合音楽会」。その後歴史を積み重ね、「岡崎のハーモニー」として受け継がれて47回目を迎えました。市内すべての小中学校が参加し、共に感動し、高め合い、睦み合うことを目指して歩みを進めてきました。その結果、岡崎市の合唱、吹奏楽、オーケストラは全国に誇ることができる成果を上げています。

③ 理科作品展

今年度で60回目を迎えた理科作品展は、岡崎の誇る木村資生博士や本多光太郎博士に続く人材の育成を目指して行われています。児童生徒の夏



休みの自由研究の発表が中心ですが、自然科学研究機構、高等学校、企業ブースを設けるなどの工夫を凝らしながら発展しています。

④ 造形おかざきっ子展

岡崎の秋の風物詩となっている「おかざきっ子展」は本年度50回目を迎えています。市内67の小中学校、幼稚園3園、養護学校等の全ての子供たちが参加し、作品数は約35000点に上ります。2日間の来場者数はおよそ60000人となります。質・量ともに誇ることのできる野外造形展は全国的にも例が少ないものです。



以上示しました通り、岡崎の教育では半世紀にも及んで、今なお引き継がれている市全体で行う行事があります。このことは、今「教育実行再生会議」として、教育再生の方向性に大きなメッセージを送ります。教育は、制度や構造をいかに変えようともそれを実施し、子供たちに伝えていくのは現場の教師でしかないので。教師の目や心を鍛えずして教育再生は図れないものだと思います。これから、教育長として「人間形成のプロであるという誇りと意識をもって臨んでいく教師」を育てていきたいと思っています。

集い、語り、母校に思いをはせて

北海道支部長 加藤佳栄

8月3日市内のホテルを会場に、20名の同窓生が集い、総会、講演会、懇親会が行われました。

今回の講演会は「卒業半世紀の軌跡」と題して小樽市在住の鈴木久司氏(昭和40年初等教育卒)にお話をいただきました。氏は、大学卒業後、小樽市内小学校をはじめとして、バンクーバー日本語補習校校長として、また、帰国後も教頭、校長として勤務された後、現在は保育所長としてご活躍の日々を送られています。中でも特に音楽活動においては、勤務校内でのご指導はもとより、小樽少女合唱団の設立に尽力され、また、PTAコーラスにもかわられ、現在も2団体を主宰されているとのことでした。「目の前の子供の輝く瞳から目をそらしてしまった瞬間から、教師としての使命は終わってしまう」と熱く語られました。その後の懇親会では、杯を介しながら各々の在学時の思い出や現在の文大の話に大いに花が咲き、会が深まったことは言うまでもありません。

結びに校歌「花のかげ」を歌い、「桂友会」の合言葉の

もとに次年の再会を期し、本年度の会を閉じました。

平成25年度役員

- 支部長 加藤 佳栄 (昭和56年 英文)
副支部長 横山 勲 (昭和41年 国文)
中村厚喜夫 (昭和53年 初等教育)
長坂 隼 (昭和37年 初等教育)
事務局次長 山本 洋嗣 (昭和56年 国文)
照山 秀一 (平成2年 英文)
神野 昌代 (平成5年 国文)
会計 大花 学 (昭和61年 国文)
本部理事 加藤 佳栄 (昭和56年 英文)
山本 洋嗣 (昭和56年 国文)
会計監査 西多 弘 (昭和41年 国文)
西山 肇 (昭和41年 初等教育)
事務局員 北田 則章 (昭和57年 英文)
桜田 琢 (平成9年 社会)
金子 歩 (平成16年 国文)
顧問 日下 功 (昭和33年 初等教育)
熊谷 勲 (昭和39年 国文)
当銀 誠博 (昭和40年 国文)

副学長「福田誠治」先生をお迎えして

岩手県支部長 堀籠智志

全国の同窓会の皆様方には、益々ご健勝こととお慶び申し上げます。

さて、隔年実施の同窓会も今年で13回を数え、平成25年11月23日(土)、「ホテルロイヤル盛岡」を会場に開催いたしました。大学からは副学長福田誠治先生においでいただきました。今回も前回同様、県内各地からたくさんの方々にご参加をいただき、大いに盛り上がりました。

福田先生からは「都留文科大学の将来」と題しまして、デンマークやフィンランドの教育、理数系学科の創設について等々の特別講話をいただきました。

また、岩手県支部の高橋一臣顧問が、平成25年春の叙勲で、長年の教育実践や教育行政に対する功績が認められ、「瑞宝双光章」を受賞されました。たいへん喜ばしいことで、皆で喜びあいました。心からお祝を申し上げます。

最後に恒例となりました万歳三唱で、2年後の再会を約束して散会となりました。



◎平成25・26年度役員(卒業年)

- 顧問 高橋 一臣 (40卒) 穴戸 英明 (41卒)
司東 節子 (39卒)
会長 堀籠 智志 (54卒)
副会长 千葉 新也 (56卒) 小山田 厚 (55卒)
事務局次長 伊藤 昌俊 (2卒)
事務局員 相墨 純 (3卒)
理事 吉田 文明 (56卒) 高橋 節夫 (57卒)
加藤 絹代 (56卒) 山名 秀樹 (56卒)
滝澤真貴子 (7卒) 安藤 裕之 (元卒)
監事 田鎖 伸子 (2卒) 丹 百合 (6卒)

「べにばな会」の益々の躍進を願って

山形県支部長 鈴木雄二

山形県出身の卒業生が集う「べにばな会」も今年度で設立21年目を迎えました。

26年度の活動として、第11回総会を今秋開催予定です。会員の皆様におかれましては、万障お繰り合わせの上ご出席をお願いいたします。

25年度は、4月20日に大学で行われた出身県別在学生との懇話会に出席し、山形県の教員採用状況について説明をいたしました。私自身卒業以来ご無沙汰していたこともあり、大学前に駅ができ、周囲の様子が一変していて、別の大学に来た感じがしました。しかしながら、懇親会での各県同窓会役員と懇談したり下宿していた大家さん宅に泊めて頂いたりして在学中のことが思い出され、旧交を温めることができました。おもてなしのすばらしさに感謝し、本当に都留は心のふるさとだと思いました。

さて、26年度の役員を紹介いたします。

会長 鈴木 雄二(昭和55年度・国文)
副会长 佐藤 英樹(昭和60年度・初等教育)

- 副会長 奥山 広幸(昭和57年度・初等教育)
監事 白林 和夫(昭和60年度・初等教育)
理事 村山 秀人(昭和55年度・国文)
同 鈴木 雄二(昭和55年度・国文)
同 和泉 一彦(昭和58年度・国文)
同 白林 和夫(昭和60年度・初等教育)
同 渡邊 隆(平成4年度・初等教育)
最上 武田 茂行(昭和55年度・初等教育)
同 佐藤 成美(昭和54年度・国文)
置賜 神尾 正俊(昭和55年度・国文)
同 佐藤 英樹(昭和60年度・初等教育)
同 中條 秀基(平成20年度・初等教育)
庄内 奥山 広幸(昭和57年度・初等教育)
同 原田 清一(昭和60年度・初等教育)
同 若月 力(平成4年度・初等教育)

以上の体制で活動を行ってまいりますので、どうかよろしくお願ひします。

入会を希望される方は、鈴木(080-3196-4639)までご連絡ください。

都留でつながる

宮城県支部長 菅野俊雄

東日本大震災から3年。全国の同窓生の皆様から物心両面にわたってご支援頂いたことに改めて感謝申し上げます。2011年12月、大学同窓会が清水雅彦先生率いる合唱団を被災地に派遣し、感動的なクリスマスコンサートを開いてくださったことを私たちは終生忘れることができません。合唱団のすばらしい歌声が今も心の中に響いています。

この1年、宮城県支部は精力的に活動してきました。2月の支部総会には46名が参加、4月には大学同窓会理事会、学生との懇話会に出席、5月・12月には鎌田光彦氏が大学で模擬面接や講話を行い、6・7・9月に教員採用選考対策学習会を開きました。また、8月の大学同窓会定期総会にはマイクロバスで15名が参加、年に1度の支部会報16号を発行することもできました。都留の仲間とこれからもしっかりとつながっていきたく思います。

全国の同窓生の皆様のご活躍とご健勝を切にお祈り申し上げ、宮城県支部からの報告とします。

<平成25年度役員>

名誉顧問 鎌田光彦 鎌田 清 小野俊次 千葉龍正
 支部長 菅野俊雄
 副支部長 安曇玲子 伊藤常治 齋藤 直 市川人士
 布施勝久 菅原義之 高橋克己 菅原佳江

事務局	齋藤竜一	坂本忠厚	松浦和浩	繁田由美
	一條良介	伊藤ひろみ	及川恵子	清水 進
	佐藤圭二	蓮沼秀行	浅井理香	
会計	横山英実	小野寺直美		
地区役員	仙 南	松野純子	伊藤久美子	
	仙 台	浅野俊夫	牛草 学	熊谷拓郎
	中 央	菊田 学	松浦和浩	
	古 川	伊藤 稔	小笠原裕見子	
	栗 原	千葉睦子	後藤咲織	
	石 巻	片桐有吾	菊田夏子	
	気仙沼	小野寺直美		
顧問	栗生秀夫	及川勝友	半澤登美子	高橋 博
	齋藤章夫	横山貞夫	目黒つねみ	松田美智子
	相澤光信	森田宏彦		



近況報告

茨城県支部長 宮内健治

全国の同窓生の皆様には、お元気でご活躍のことと存じます。茨城県支部では、本年度9月に水戸市三の丸ホテルで同窓会役員会を実施しました。支部長から同窓会理事会等大学の現状報告がありました。富士山の世界遺産登録やJ Rリニアの本格的工事、大学の陸上部や合唱団の活躍など都留市や大学が脚光を浴びることはうれしい限りです。

その後、親睦会をもちました。先輩の同窓生から大学が草創期の様子を伺い、現在の環境との違いに驚くばかりです。

小生の勤務校（藤代高校）では、2年次に大学見学会を実施していますが、本年は8コースのうち、1つが都留大を訪問しました。希望者（54人）が多く、バス2台で訪問し大学内での案内や見学に大学関係の方に大変お世話になりました。今後、都留大入学につながればと期待しています。また、本県教員採用試験の合格者があり、今後の活躍が期待されます。

茨城支部では、次年度以降支部同窓会総会の計画をしています。

*訃報

茨城県支部長として、長年御尽力頂きました顧問の大川英世先生（英文卒）が昨年10月に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りします。

一人一人の同窓生の皆様とともに

群馬県支部長 齋木雄造

群馬県支部では、支部創立5年目となる平成25年8月23日（金）高崎駅ビル内、ホテルメトロポリタン高崎において、第5回総会を開催しました。

今回の総会には、それぞれが忙しさを抱えている中、21名の皆様が参加してくださいました。また、一昨年度に大学を卒業されたばかりの若い皆さんも参加してください、充実した時間を過ごすことができました。群馬県支部では、同窓生相互のつながりを大切にするとともに、若い皆さんを支援していく体制を整えて具体的な取組に結び付けていきたいと考えています。群馬県支部は、一人一人の同窓生の皆様とともに歩んでまいります。

なお、第6回総会は、次のとおり開催する予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

日時 平成26年8月23日（土）18:00
 会場 ホテルメトロポリタン高崎（高崎駅ビル内）

<群馬県支部役員>

支部長	齋木 雄造	(昭52国)
副支部長	熊川 稔	(昭49英)
	原 俊明	(昭59英)
事務局長	島田美恵子	(昭44初)
監 事	田村 麻路	(昭55初)
	金子 朋裕	(平2初)
庶 務	江原 悠一	(平10英)
	金沢 和子	(平1英)
	古川 整	(平11社院)



教員採用に係わる支援活動

千葉県支部長 川名和則

都留文科大学同窓会会長亀田孝夫様はじめ役員や事務局の皆様方には、日頃から同窓会の支部運営に御支援をいただき深く感謝申し上げます。

昨年、野田純支部長が鴨川市教育長に御栄転された関係から、バトンを引き継ぐことになりました川名和則(英文52年卒)でございます。

平成25年4月同窓会理事会、5月に模擬面接試験体験会の講師として久しぶりに大学を訪問させていただきましたが、大学環境やキャリア支援センター整備が進み、「図書館やキャンパスの学生たちの生き生きとした姿」に感激いたしました。



あらためて、加藤祐三学長はじめ、大学側スタッフの皆様方のきめこまやかな御指導に感謝申し上げます。

さて、千葉県支部では、ここ数年教員採用に係わる活動を強力に

行っておりますので、御紹介させていただきます。

4月20日(土)同窓会理事会後の在在学生との懇話会(学生8名)、5月11日(土)模擬面接試験体験会(学生13名)、7月14日(日)千葉県教員採用試験実施

<2次試験対策学習会>⇒2次試験 8月17日(土)~

①期 日 平成25年8月12日(月)13日(火)

②会 場 千葉県立安房高等学校

宿泊場所:幸田旅館

③参加者 ・受験者14名(小10名、中高4名)

・指導OB13名

④学習内容 ・講話 教員の心構え(講師:林俊之元校長)・合格体験談3名のOB

・OBによる模範授業<道徳をテーマ>

・演習・模擬授業・個人面接、集団面接

・教科別指導・集団訓練等

講 師:野田純鴨川市教育長、川名和則校長、木村雅浩事務局長、武藤輝人先生他

成果:2次試験合格者(採用予定者)が10名を超えるという好結果となり、関係者一同喜んでます。また、高等学校社会科(地理歴史)の採用者が本県で初めて出たことも嬉しい限りであります。採用後の活躍を期待するとともに、OBの先生方のこれまでの御指導に感謝申し上げます。

東京都支部の近況

東京都支部長 松本多加志

平成25年10月16日の台風26号による伊豆大島の土石流災害で被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を祈念いたします。

さて、同窓生の皆様方におかれましてはご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

平成25年10月6日に都留文科大学同窓会東京支部総会が聞かれ、平成25・26年度新役員を承認(全員が前回に引き続き担当)いただきました。

総会に引き続いて行われた懇親会は、多忙な中、大学より加藤祐三学長、本部から亀田孝夫会長および桐井幸雄副会長、そして、興石東参議院副議長にご来席いただきました。加藤学長より「大学が新たにチャレンジすること」亀田会長より「同窓会の発展に東京支部に期待」興石議員より「都留大時代のエピソード」などのお話は、参加者にとって、都留文科大学時代の思い出を基にした懇親のきっかけとなり同世代の旧交を温めるとともに、各世代(20~70歳代)相互の絆を結ぶ有意義な会となりました。



<平成25・26年度東京都支部役員>

- 支 部 長 松本多加志(昭44)
- 副支部長 黒田 賀代(昭32) 長沢 和子(昭43)
- 橋本 秀夫(昭44)
- 庶 務 奈良 覚(昭45) 榛原 紀子(昭58)
- 田村 聡(昭62) 西村 学徳(平12)
- 会 計 矢野 優(昭47) 高野 明彦(昭49)
- 会計監査 松田 篤郎(昭42) 泉 宜宏(昭47)

「富士山」が世界遺産に!

山梨県支部長 田中克己

皆さんご承知のとおり、平成25年6月22日にカンボジアで開催された「第37回ユネスコ世界遺産委員会」にて『富士山』が世界遺産に登録されました。全国の同窓会の皆さん方も、学生時代に部活や下宿の仲間達と富士山周辺を周遊されたご記憶が甦ってくることと思われま

す。さて今年度、本支部では次のとおり役員交代が行われました。2期4年間に渡って山梨県支部を牽引して下さった「倉田由和会長さん、吉田一郎事務局長さん」たいへんご苦労様でした。私達新役員も、力不足ではありますが、二年間力を合わせて頑張りたいと思います。本県同窓会会則第三条に「本会は都留文科大学の振興に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的とする。」と記されています。本県同窓会は世界遺産「富士山」に負けないように、本学のお膝元としてふさわしい活動を行って参りたいと思いますので、ご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

[山梨県同窓会役員] 平成25~26年度

- 会 長 田中 克己(南都留)
- 副 会 長 水上 昭夫(笛 吹)
- 副 会 長 松土 仁郎(中巨摩)
- 事 務 局 長 日向 哲男(南都留)
- 事務局次長 原田 孝雄(南都留)
- 事務局次長 丸山 一彦(笛 吹)



平成25・26年度山梨県同窓会定期総会
都留文大2号館101教室にて(H25.8.4)

第2回長野県支部総会～54歳の年齢差

長野県支部長 堀内 敏明

本支部は昨年度、設立総会を下高井郡山ノ内町渋温泉の「月見の湯 山一屋」で開催し、全国で36番目の支部として発足いたしました。1000人を越える会員数です。本年度は高田理孝副学長と亀田孝夫同窓会長をお招きし、10月26日(土)に上伊那郡箕輪町の伊那プリンスホテルで総会及び懇親会を開催しました。



1959年卒業生から2013年卒業生まで、参加者の年齢差は実に54歳でした。また、昨年度は親子での参加やご夫婦での参加がありましたが、本年度もご夫婦での参加があり、参加者はバラエティーに富んでいました。

総会では高田副学長より大学について、亀田同窓会長より事業についてお話いただきました。また、議事で24年度事業報告及び会計・監査報告、25年度事業計画及び会計収支予算が承認されました。

懇親会では初めて会ったにもかかわらず、年代を超えて大学時代の話に花が咲き、大いに盛り上がりました。最後には、都留文科大学学生歌「花のかげ」をアカペラで大合唱しました。

26年度は10月25日(土)にホテルモンターニュ松本(松本駅西口徒歩1分)で開催予定です。

【長野県支部役員】

支部長 堀内 敏明 (1980年卒)
副支部長 小林 久通 (1982年卒)
同 塩澤 忍 (1983年卒)
監事 小野沢伸二 (1988年卒)
事務局長 市村 一彦 (1989年卒)

平成25年度 岐阜県支部活動報告

岐阜県支部長 山本 吉朗

平成25年度は、総会に代えて役員会を8月17日に開き、24年度の事業報告、収支決算報告、監査報告を審議した後で平成25年度の事業計画、予算案等を審議し運営事項や活動方針を決定しました。

その中でも本年度は特に同窓生の就職に関わって同窓会支部として具体的に力になれることをしようと言うことが話し合われました。昨年度は古川一男庶務のお世話で「岐阜県公立学校教員採用試験に関わる選考の概要」の冊子等をキャリアサポートセンターに送付して活用してもらいましたが、本年度は、さらに具体的なサポートができないかという事で、サポートセンターに岐阜県教員採用一次試験をパスした同窓生を知らせていただき、二次試験に向けた指導を加藤勝祥庶務に直接していただきました。

また、支部組織の強化を図る事業として支部会報を発行して総会の様子や会員の紹介、大学の情報等を支部未加入者を含む全同窓生に発送しました。

一方、支部入会者を少しでも増やすために年賀状を岐

阜県在住の以下の同窓生にだすことにしました。

支部設立時の同窓生で様々な理由で岐阜県支部に入会しないと表明した者、結婚等で県外に転出した者および住所不明や転居先不明の者を除いた者と支部設立時以降の卒業生を合わせて532名の同窓生です。函柄や文章内容について幾度も推敲して作成しました。その中で、来年度行われる予定の支部総会にぜひ出席をしてくれるようにとの要請や支部未加入の同窓生への加入の勧誘等を行いました。

○平成25年度岐阜県支部役員

・顧問 細野 矩義 (66卒)
・支部長 山本 吉朗 (65卒)
・副支部長 清水 栄 (68卒)
藤井 幸子 (69卒)
・事務局長 佐藤 眞治 (72卒)
・庶務 藤埴 功 (72卒)
加藤 勝祥 (78卒)
古川 一男 (81卒)
梅田 典利 (91卒)
・監事 河合 均 (84卒)
山岡 一信 (84卒)



(日本一の徳山ダムと船上からの紅葉)

秋の懇親バス旅行・能登めぐり

石川県支部長 西田 良治

10月19日・20日、石川県支部では懇親バスの旅を企画実施しました。今回は平成23年6月に世界農業遺産にも指定された「能登の里山里海」にふれるため、「能登めぐり」の旅へ出かけた。今回も山根公氏(昭41国文・いしかわ観光特使)に解説と案内をお願いした。

金沢駅からマイクロバスで一路、能登空港へ。東京から1日2往復ジェット機が就航している。ここで能登方面の参加者と合流。

能登空港から能登半島の先端をめざし、能登町黒川の大領庄屋中谷家から、弘法大師空海の逸話がある見付島(軍艦島)、珠洲焼資料館、義経伝説の須々神社を見学。能登の先端、禄剛崎を車窓に見つ、「平家にあらずんば人にあらず」の言で知られる平時忠公の末裔、上時国家も見学。揚げ浜式塩田法を今に伝える能登塩田村、田んぼのあぜに30,000個のキャンドルを並べた「あぜの万燈(あかり)」準備中の輪島市白米千枚田を見つ、宿泊地の門前ビューサンセットに向かった。

途中、垂水の滝で同窓生と旧交を温め、また、自宅に押しかけ趣味で集められた「石」を眺めたのも同窓会ならではの心温まる交流であった。

宿泊地では小宴を催し、結びに「武田節」「花のかげ」を合唱し、思い思いに大学を懐かしんだ。

翌朝は阿岸本誓寺、天領黒島の商家「角海家」、曹洞宗大本山総持寺祖院を見学。平成19年の能登地震で被害がなかった本誓寺、再建を果たした角海家、復興途上の総持寺祖院と、天災の爪痕を垣間見た。

スタートした能登空港に戻る。ちょうど、東京行きの便の離陸を見送り、未来に思いを馳せた。

能登めぐり、改めて故郷の魅力を再発見できた。来

年、平成27年3月には北陸新幹線金沢開業を迎える石川。全国の同窓生にもこの機会に来県いただければと願う。



「めいりん」で友とヤマネと名水と

福井県支部長 西出 健一

今年度の総会は、名水で名高い大野市で11月9日に開催しました。初めに、紅葉が綺麗な美しい大野（亀山）城の麓にある「めいりん」（大野市有終西小学校）の施設を見学しました。

この施設は小学校と公民館が合体した複合施設で全国



でも珍しい建物です。底が自動で上下するプール、グラウンドに直ぐ出られる多目的教室、地下水を利用した床冷暖房システム等珍しいものばかりでした。

講演は、下泉元学長の指導の下ヤマネの研究を重ね、現在この道の第一人者湊秋作関西学院大学教授（S50初卒）から、ヤマネの研究成果の一端を紹介していただきました。

和歌山県で教員を続けながら子どもたちとヤマネを調査したこと、山梨県清里にある研究所に今でも通っていること、ヤマネは僅か18gの哺乳類だが恐竜が絶滅した後からずっと生き続けている小動物であること、森と森を分断する道路に小動物が通れる橋を大手建設会社と行政とのコラボで作ったこと、何よりヤマネを学ぶことが環境教育に繋がること等を聞きました。

次代を担う子どもたちの育成に関わる私たちにとって、とても素晴らしい講演でした。

総会後は、上庄の里芋と名水を片手に、大学や下宿生活の話で盛り上がったことは言うまでもありません。

来年は福井県支部（城山会）結成20周年の年です。夏に都留で総会をと、会員一同今からとても楽しみにしています。

「花のかけ」を懐かしんで

愛知県支部事務局長 長尾 隆

1 県支部の活動

愛知県では、県内を8地域に分けて、持ち回りで年1回、地域幹事会を開催している。この会のいちばんの目的は、各地域の活動報告及び情報交換である。また、地域での、同窓会員の洗い出しや新規採用者の情報交換も行っている。今後の課題も報告され、5年に1度開かれる県総会の準備に向けての取り組みが確認された。



(第9回県地域幹事会 H25.12.21 於：百楽)

2 県地域幹事会に参加して

各地域から多くの同窓生が集った。今回は幹事の世代交代もあり、新しく参加した会員も多くみられ、参与（校長または校長OB）も含め、31名の参加者であった。

会の冒頭、現在の大学や町の様子をDVD映像で流した。その中で私は、30年以上前に歌った「花のかけ」に触れることができた。自然に口ずさみ、当時の楽しかった思い出に浸るとともに、連携を深めることができた。

〈平成26年度の県支部組織〉

支部長	平手 孝幸 (名古屋55初)
事務局長	長尾 隆 (名古屋57初)
地域幹事	名古屋 竹内 義信 (58初)
	尾張 竹谷 竹久 (54初)
	海部 平野 豊 (56初)
	知多 山本 肇 (56国)
	西三河 平岩 康彦 (58初)
	豊田・みよし 杉浦 俊孝 (58英)
	東三河 岩瀬 雅洋 (57初)
	新城設楽 後藤 康仁 (58英)

支部総会に思う

三重県支部長 中矢 泰之

8月26日。津市の「教育文化会館」で総会を開催しました。県内各地から26名が集まりました。総会は支部創設から毎年開催しています。

今年初めて参加した人が3人、名古屋へ転居したにもかかわらず、参加してくれた人も集まり、活発な意見交換のある総会でした。

総会後、昭和48年国文科卒で、現在臨床発達心理師として三重県内の小中学校6項のスクールカウンセラーをしている幸崎美津男さんの講話を聴きました。とりわけ「回想法」の話に参加者の関心が集まりました。それが契機となり、そのあとの懇親会は、「都留」の懐かしい「青春時代」「真摯な学究の徒？」の話に花が咲きました。恋の成就した話、また、失恋の話、下宿の大家さん、都留の町、喫茶店、谷村小学校、友達のこと、講義のこと、恩師の先生のこと、など思い出話が溢れました。

しかし、思い出だけではありません。最近「都留」を訪問した人からは、現在の都留の町のこと、諸設備の整った

大学に変身したこと等話題が尽きませんでした。

支部の同窓会がなければ思い出さなかったであろうことを、いっぱい語り合いました。

現在の自分を形成してきた中に、「都留の町と大学」があるという事を改めて実感した総会でした。

三重県の同窓生が300数十人いることを、各人の胸に留め、これからお互いに連絡を取り合いより濃密な関係になれるよう頑張ることを誓い合いました。

三重県内にある大学の組織化された同窓会でおそらく5本の指に入る規模ではないのかと思います。

この組織を生かすも殺すも今の私達ではないのかと考えています。これからも少人数であります、同窓生が増えます。その人たちに同窓会の組織があることを伝えと同時に、同窓会の良さを伝えていければと考えています。このような雰囲気でした。



第23回兵庫県支部総会

兵庫県支部長 渋谷 訓生

平成25年度、第23回兵庫県支部総会を6月15日(土)に、姫路市で開催した。アトラクションとしてNHKの大河ドラマ「黒田官兵衛」の発起人でもある播磨黒田武士顕彰会理事・山下博文氏に「黒田官兵衛」招致の裏話を楽しくお話していただいた。姫路城は今、平成の大改修で全容を見ることが出来ないが、屋根の改修等職人さんたちの働いておられる様子が見られる機会があるので、一度来られると良いだろう。懇親会では、青春時代の思い出を一人ひとりが懐かしく語り、当時の大学生活に想いを寄せるこ



ことが出来た。わずか4年間の思い出であるが、その後の人生の礎となり、共に過ごした友人との絆は今もこうして

続いている。素晴らしい同窓会かな！今後に続く現役生のために良き先輩として導いていこうと誓い合いました。そして我々自身も同窓会での出会いを糧にして更に職場に、そして残りの人生を有意義に送ろうと、又来年の総会に元気に会いましょうと「花のかげ」を合唱して散会しました。

平成25年度都留文科大学同窓会兵庫県支部役員名

- 名誉顧問 赤穂 栄一
- 顧問 井上 弘和
- 会長 渋谷 訓生
- 副会長 仲野 壽志 小林 伶子 後藤 純二
- 事務局長 高谷 和久
- 事務局次長 敦見 信彦
- 会計 川野 憲廣
- 会計監査 牛尾 英俊
- 各地区役員理事 三木 健司 北倉 一正 青木 芳信
茶谷 紀元 苗村 道弘 中村 市衛
中嶋 明美
- 副理事 中山 貞二 大榎 恒年 辻奥 彰
網谷昭次郎 小林秀一郎 吉本 健治
庄田 康生

自分のできることで

広島県支部長 小谷 桂司



「自分のできることで」を念頭に、同窓生の一人として支部活動も少しずつ、少しずつ進めています。人と人を繋ぐ、人の心を結ぶ、それが組織の充実と信じ。それも、人にささえて戴き・励まして戴いた今

の自分。まだまだ学び、自らを磨かなければならないと日々反省する今の自分があります。

毎年4月の同窓会理事会、5月の模擬面接試験体験会の日に行われる同郷の在校生との懇談会(現状の広島県の学校教育の採用状況・試験等の傾向と対策など)に参加させて戴き、「自分のできることで」を語り、現状の教員採用の難しさや学生の教員志望への減少傾向に対して、少しでもお力になればと感じ都留の地へ行かせて戴

いています。少しずつ少しずつその成果は出てきているのではとも感じています。そうした中、今年度卒業する学生から「採用決定」のお手紙を戴きました。

「あの時、私の話をしっかり聞き、質問をよくし、きっちりメモをとっていたあの学生だ」と当日のあの場の・あの時のできごとが思い浮かび感激いたしました。

師走時 新たな船出 便りにて
光明待と そっと祈らん

桂 歴代

平成25年度役員

- 顧問 金久睦彦 松田昌紀 中西正一
- 会長 小谷桂司
- 副会長 表 善彦 目崎仁志
- 事務局長(兼:会計) 二宮 正
- 理事 佐島千賀子 田丸正実 宮本 仁 山城義明
猪原憲三 本宮達弘 土橋義信 三永政幸
池田桂子 島本智子
- 監査役 三井昌宏 白石 隆
- 幹事 山中 護 田辺恵子 五葉木輝正 兼丸裕子
安藤正弘 奥窪尚昭 末房朋子

結成から10周年の岡山支部

岡山県支部長 原田 直樹

平成15年8月に岡山県支部が誕生してから、早いもので10周年の節目を迎えることになりました。

発足当初の支部総会は8月実施でしたが、会員が集まりやすい時期ということから、2月11日(建国記念の日)に固定して、岡山駅近くで開催するようになり、平成25年度総会もその予定で、ただいま事務局主導で鋭意準備



を進めているところです。

上述のとおり、平成26年2月11日に支部総会開催の予定ですが、詳細は案内はがきでお知らせします。

結成当初の会場は岡山駅から少し離れた場所でしたが、集まりやすさを考慮して近年、公立学校共済施設「ピュアリティまきび」で行うようにしています。詳細は案内はがきをご覧ください。

掲載の写真は25年2月の総会参加者です。10名が集い、楽しい懇親のひとときを過ごしました。

同窓生を多数輩出している岡山県支部としては、前年度を上回る参加を期して広報してまいりたいと思っています。支部総会には、ぜひ懐かしいお顔をお見せください。多数のご参加をお待ちしています。若手の会員もぜひ参加してください。皆さんで、谷村の壊かしい話をいたしましょう。

- 岡山県支部役員 支部長 原田 直樹
- 副支部長 菱川 徹
- 理事 岩城 孝志 坂上 信二
中野 元雄 土師 康生
- 監査 川口與志継 岩崎 美幸
- 事務局 岩城 孝志 岡本 智江

同窓会で思うこと

鳥取県支部長 金田吉治郎

不易流行を常に考えさせられた現役を退き、世の中を少し余裕を持ってみるようになってきた昨今です。都留大については、その発展の様子や卒業生の活躍をマスコミ等を通じて見聞きしたり、支部同窓の席で爽やかな連帯感を感じながら会話を楽しんだりしています。

例年、勤労感謝の日には本県支部の同窓会を開催しています。年によって多少はありますが25年度は20名近くが参加し、楽しい会話が弾んだと聞きました。この度はたまたま所用のため参加できなかったことが残念でした。

私が在学して



いた昭和40年代は教員を目指す学生がほとんどで、教員になる気持ちはないという声を耳にすると、何のためにここに来たんだという冷たい反応があったことを思い出します。それほどほとんどが教員を目指していたためか、最近、たまたま同職の機関誌に私の拙文が掲載されたことがあった折り、それを読んだ他県の同窓生から懐かしい連絡をいただいたこともありました。

支部の同窓会では、現在は様々な方面に活躍される人材を育成していることを知ったり、人の輪が広がったりしました。懐かしんだり意見交換をすることも楽しいのですが、それだけでなく、形には表せない共通の思いを持ちながら、若い息吹を感じ、たくましい思いを感じたりすることもあります。ひと時とはいえ、心なごむ本会にたくさんの方が集うことを祈念したいと思います。

◎平成26、27年度支部役員

- 会 長 金田吉治郎
- 副 会 長 山本 英明、古都 英幸
- 監 事 秋田 憲一、真島 順子
- 事務局 長 米村 立郎
- 庶 務 岡田 栄子、西田 智貴、谷口 俊則

島根県支部総会報告

島根県支部長 小藤 貢

平成25年8月31日(土)に都留文科大学同窓会島根支部の総会ならびに懇親会を開催しました。

今年は、役員改選の年であり、会長より8年間経過したので交代時と辞表提出がありました。若返りも必要だが、島根支部の立ち上げに尽力された小藤氏を推薦するとの意見が出て決定しました。副会長も2名交代でした。

懇親会では、富士山が世界遺産に登録されたことから、この話題で盛り上がりました。会員の中には、夏休みに毎日郵便物を頂上まで配達した人や頂上で一カ月間アルバイトをした人の体験話で、思い出多い富士山から学生時代をそれぞれ懐かしむことができました。当日は少人数のこともあり、打ち解けた雰囲気の中、懐かしい都留の話題で終始もちきりでした。

今後は、少しずつでも本会の活動を充実していきたいと思えます。

決定した、25・26年度の役員を紹介します。

◎島根県支部役員(卒業年度)

- 顧 問 木村 晴男 (S44)
- 会 長 小藤 貢 (S45)
- 副 会 長 服部 哲郎 (S44) 榎野 博巳 (S45)
- 理 事 寿 慧信 (S42) 池田 稔 (S43)
- 伊藤 博 (S44) 古瀬 厚義 (S46)
- 事務局 長 大島 英明 (S59)



四万十川の流のごとく

高知県支部長 清岡典代

全国一暑い市となった四万十市において、平成25年8月3日に高知県支部総会を開催いたしました。8名という数少ない参加ではありましたが、涼を求めての四万十川の屋形船での総会は風情があり、心温まる会となりました。総会において、出席者の近況報告、平成24年度の活動、決算報告並びに平成25年度の事業計画が確認されました。

また、総会後は、四万十市が一望できる四万十市郷土資料館をお訪れ、高知県西部の郷土資料をじっくり眺めながら、幡多の地の歴史に浸ることができました。

私は昭和59年に国文学科を



卒業し、早30年が経ちました。卒業以来一度も都留を訪れていないのですが、年一回のこの高知県支部総会の時だけは、都留に戻ったような気分になります。あの季節ごとに織りなす美しい都留の風景や、いつも温かく支えてくれた友人の顔が懐かしく思い出されます。

都留文科大学の卒業生であるという共通点だけでこんなにも穏やかに親しく話ができるということが都留の魅力だと感じます。全国一都留文科大学の同窓生の少ない高知県ですが、発足以来11年目を迎えることができました。少ない限られた参加者の中で続けることができましたのも、会長をはじめ、事務局の方々のおかげと感謝しております。この度、発足以来、活躍された清岡典代会長から前田志郎会長へとバトンタッチされることになり、また新たなスタートを切ることとなりました。事務局の方からは「都留大高知同窓会報」を発行して下さい、同窓生の様子や近況も知ることができます。

支部総会における集いの輪も今後広げていきたいと思っております。一度も参加されたことのない方、是非一度お越し下さい。四万十川の流のごとく、これからも絶えることなく多くの人に愛される支部になればと思っています。(文責 岸本教恵)

田山家3人都留文卒！

熊本県支部事務局 田山 智雄

平成25年度。私の教職生活がスタートしたのは平成元年4月から。「教職何年目ですか」と尋ねられれば、平成と同じ「25年目です」と答えます。同時に、都留文を卒業して25年です。今までは、足元を見ながら一生懸命仕事をしてきました。しかし、ふと顔を上げれば定年までの折り返しはとっくに過ぎ、残り三分の一くらいしか残っていません。教職の仕事は、時代の変化とともにやるべきことがどんどん増え、年々厳しさを増してきています。きついきついといいいながらも、自分で選んだ仕事。毎日を充実して送っています。

私が教職を選んだわけ。それは、「先生は楽しか」と小さいときから耳にした言葉でしょう。そう、言っていたのは父。子どものころ遊びに連れて行ってもらったのは、勤めていた中学校。遊んでもらったのは教え子の中学生。クワガタやセミを一緒にとっていた記憶があります。父も

教職を楽しんでいたのでしょう。

教職についてからは、本をもらったり、資料をもらったり、様々なアドバイスをもらったりしたのが、父の一番下の弟叔父です。私には先輩教師が2人もいたのです。さらに、なんと2人も都留文卒。

私が29年前に都留文に進学し、すぐに探したのが、父が下宿していたところでした。都留市駅からまっすぐ出たお寺が集まったところに見つかりました。さすがに大家さんは代わっていました。次に、叔父が住んでいたという十日市場の下宿屋を探しました。そこは、大家さんも覚えていらっしゃる「あらまー」と懐かしんでいらっしゃいました。講義が始まり、美術の授業を取ったところ、中山義典先生にも親子2代で習うことができました。

今、熊本支部では同窓会を2年に1回行っています。平成25年度は開催しない年で、平成26年が開催年。今回から事務局の仕事をするようになり、盛会に終わらせたいです。そして、親子2代で出席し、「武田節」を思いっきり歌いたいです。

支部総会・懇親会開催

宮崎県支部長 荒巻 孝行

我が支部では活動の主眼を会員相互の親睦と福利厚生を図ることに置き、更に母校「都留文科大学」の発展に寄与することを目的としている。平成23年の総会の場での協議により、総会並びに懇親会は隔年毎に開催することが決定した。また、年2～3回の同窓会報の発行は毎年継続することと決定した。

平成25年8月24日(土)の支部総会及び懇親会の折に役員改選が協議としてあがり、宮崎県支部会規約第3章第6条に従い、話し合いの結果次の役員が承認された。

会 長 荒巻 孝行 (日向)
副 会 長 山口 洋一 (都城)
々 佐藤 毅 (日向)
事務局 長 波岡慎太郎 (門川)

地区支部長
①県北支部・延岡・日向・西・東白杵 古川 久師 (延岡)
②西都支部・児湯 山崎 彰生 (西都)

③宮崎支部・東諸 川添 逸夫 (宮崎)
④小林支部・えびの・西緒 松元 国治 (えびの)
⑤都城支部・北諸・三股 中尾 仁志 (都城)
⑥日南支部・串間・南那珂 増田 光弘 (日南)

懇親会では思い出話に、年齢差も学年も忘れ、和気あいあいと会話が弾み、都留市の発展ぶりや大学の整備充実の様子を驚きと感銘と懐かしさの交錯する中で聞きながら、当時を忍び、時間の過ぎるのも忘れた。元気なうちに是非、都留の街や大学を訪ねたいもののだとの声しがきりに囁かれ、顔を見合わせ頷かれる姿が印象的でした。今後も、地域に密着し、しかも、個性豊かな特色ある大学、若者に夢を与えられる大学として大いに発展することを期待申し上げます。



再任用制度雑感

沖縄県同窓会副会長 比嘉 正夫

平成25年3月、30年間中学校英語教師として勤め、退職の時を迎えました。最後の5年間は校長として、生徒たちがかわいくてしかたがなく、やりがいを感じながら楽しくがんばってきました。今再任用制度ができたおかげで、初任者研修拠点校指導教員として仕事をしています。沖縄では管理職のあとの再任用で仕事に就く人はまだまだ数えるほどです。私は現在3つの中学校に4人の初任者がおり、フルタイムで一日3・4時間の研修を担当して初任者を育て、また共に学んでいます。給与は退職時のほぼ6割ですが、仕事量に見合ったよい待遇だと感じています。各学校で学校長他全職員の協力を得ながら、学級経営から教科経営、生徒指導、道徳、特活等全ての面で研修

を持ちます。やりがいのある仕事だと思います。

都留に居るころは卓球部活動に打ち込み、読書をしたり、友人と語ったり、恋に挑戦したりしながら、また一生の拠り所となっている一つの哲学に巡り合うなどしました。総括するともっと勉強をがんばっておけばよかったと思い、また貧乏でみじめな気持ちを感じながらの学生生活でした。大学を卒業して34年、今年度は時間的にも余裕のある仕事なので素直な卓球部の生徒たちと沖縄県ベスト4を目指して卓球にも打ち込んでいます。学生時代取り組んだことは無駄にはならないものだと実感しています。都留大の後輩の皆さん、学生の本分頑張ってください。同窓会の皆さんこれからも前進しましょう。

体育会

平成25年度体育会
会長 保坂俊介

陽春の候、都留文科大学同窓会会員のみなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、平成25年度都留文科大学体育会はスローガンに「常昇(じょうしょう)」を掲げ、常に選手としても人間としても成長し、勝利を目指していくことを目標に活動してきました。去る6月22・23日には、高崎経済大学との総合体育対抗戦である鶴鷹祭が開催されました。今年で40回を数える鶴鷹祭は都留をホームに開催されました。結果は12対11で高崎経済大学に勝利し、大会2連覇を果たしました。



鶴鷹祭

40回目という記念すべき節目の大会で勝利することができ、とても喜ばしく思います。これもひとえに関係各位、並びに都留文科大学の諸先輩方のご声援とご指導のお陰と、厚く御礼申し上げます。

今後とも都留文科大学体育会は、スポーツを通じて、地域に貢献し、且つ大学を盛り上げていくことが出来るように努力していく所存であります。至らぬ点は多々ございますが、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

文化会

平成25年度文化会
会長 太田裕也

春暖の候、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成25年度におきましては、文化会所属の合唱団が「第66回全日本合唱コンクール」におきまして金賞を受賞しました。5年連続金賞という大変優秀な成績を収めることができたのは、現役員の力の他、OB、OGの先輩方のお力添えの賜物と、深くお礼申し上げます。

また、文化会は管弦楽団・吹奏楽部などの音楽団体の定期演奏会や、写真部・



桂川祭にて

第66回全日本合唱コンクール全国大会

美術部などの展覧会など、積極的に活動を行っています。

文化会本部におきましては、諸先輩方が築いて下さった伝統を引き継ぎ、各団体のさらなる発展を目標に、積極的に活動を行っていきたく思います。

今後とも、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方には、ご指導とご鞭撻の程、よろしく申し上げます。

平成24年度都留文科大学同窓会会計収支決算書

(単位:円)

◆収入の部

Table with 5 columns: 項目, 当初予算額, 補正予算額, 予算現額, 収入済額, 備考. Rows include 入会金, 終身会費, 繰越金, 雑入, 収入合計.

◆支出の部

Table with 5 columns: 項目, 当初予算額, 補正予算額, 予算現額, 支出済額, 備考. Rows include 事業費, 会報発行費, 支部助成金, 支部設立準備金, 新入学祝費, 支部旗作成費, 教員採用試験学習会費, 被災地支援活動費, 会議費, 総会費, 理事会費等, 同窓会本部費, 事務費, 運営費, 慶弔費, 本部役員活動費, 積立金, 予備費, 支出合計.

(収入済額) (支出済額) (収入・支出差引残高額)
¥12,444,945 - ¥11,398,455 = ¥1,046,490

◎基金の増減

Table with 2 columns: 項目, 金額. Rows include 平成23年度末積立現在高, 平成24年度中積立金(財政調整基金、大学創立記念事業基金), 計.

基金内訳

Table with 2 columns: 基金名, 金額. Rows include 大学創立記念事業基金, 計.

都留文科大学 六十周年からの展開

公立大学法人
都留文科大学理事長
大谷 哲夫



我が都留文科大学は、その草創から数えますと、来年の平成二十七（2015）年に六十周年を迎えます。

都留市は、本学の草創にあたり、市を「東京に近接する絶好の大学都市」と位置づけ、初代学長は「全国の文化と教育に貢献することは一大快事である」と述べたと伝えられます。また、都留市は、近年の高度経済成長期においても、自らの主たる役割を「教育」に確実に見定めて、次世代の教育者の育成に力を注ぎました。大学自体も教職員一丸となって、「箒莪育才」の精神を遺憾なく発揮し、その結果、本学は全国から優秀な学生を集め、教育者を育てる場を確立し、有為なる卒業生は教育現場ばかりではなく、社会のさまざまな場で活躍しています。今では、本学が都留市の大きな財産であり、地方都市に存在する大学の

雄として希有な存在であることは周知の事実です。

しかし、現代の日本の大学における少子化の問題は極めて深刻で、地方の大学では、定員割れどころではなく、既に閉校に追い込まれている大学も出現し、大学淘汰の現象が顕著になってきている現実があります。そのような現状に鑑みると、本学といえども、時代を先取りした対策を怠るならばどのような事態を招くか予想はできません。今後、都留文科大学は、「教育研究」では、新カリキュラムの実施に伴う教育環境の整備、それに付随する各種センターの設置とそれらを集約する建物の構築。「学生支援」では、学生へ奨学金の充実は勿論、国際交流をより実践的にするための独自の奨学金の導入とその展開。「地域貢献」では、都留市と綿密に連携して「大学 coc=地(知)を生かす拠点=推進機構」を充実させ、大学と地域が融合したところに発生する知的財産を有効的に活用する場を構築し総合的な学園都市を目指します。

本学は、六十周年を期して、全国の文化と教育に貢献するばかりではなく、地方大学の雄として、先人に学び、世界への情報発信する、より以上の存在感のある大学へと展開しますので、皆様のご協力をお願いいたします。

学修から学習へ

新学長

福田 誠治



世界は、教えられたことを覚える学修(study)から自ら進んで学ぶ学習(learning)へと変わりつつある。日本では、大学だけは自ら学ぶことを前提としていて、どれだけ学ぶかは学生一人ひとりの問題であった。どれだけ成果を出すかは、本人次第だったのである。ところが、この10年ほど、学校は成果を出せということになった。成果が出ないのは、学ばなかった生徒のせいではなく、教え方が悪いのだというのである。生徒がどうであろうとも、教え方さえよければ何でもできるようになるというのだ。この成果主義は、バブルがはじけた後、アメリカ的経営が日本に直接入ってきたものである。日本の大学は、世界と逆の方向に動いているのである。いや、米英日の教育が

といった方がよいかもしれない。

私は、学校は人間を育てる場所として踏みとどまるべきだと考えている。科学技術の進展で、知識や技術は速いスピードで変化している。一生に一度の職業ではなく、転職の時代に入っている。学び続けるという生涯学習社会は、最終学歴がどこかわからないという制度になっている。かといって文献を読んで研究者になれと言っているわけではない。ここが大学の教員がよく間違えるところだ。例えば、地方に戻って公務員になるということは、自分の生まれ育った地域に産業を興し、その地域で人間が生きていけるように地域を活性化する力を蓄積し、発揮することであり、その力を自分と役所や地域に開発していくことであり、足りなければ事業構想ができるように自治体から派遣されて大学院で学び直すというように、常に探究的な生き方をすることなのだ。

都留文科大学を、日本一、いや世界でも有数の「人間が育つ創造的な大学」にして、山梨まで学生を集められるようにしたい。それこそが偏差値や受験勉強のみでひた走る、ガラパゴス化した日本の学力競争を脱する道でもあると思う。

氏名・住所等変更届はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAXで、お願いします

結婚・転居等により住所や氏名等を変更された方は、次の必須項目及び変更内容を、いずれかの方法によりお知らせください。郵便はがきでの氏名・住所等変更届の場合、はがきは自己負担でお願いします。

1 ホームページ

(1)本学ホームページより[卒業生の方へ]→[同窓会]→[同窓会氏名・住所等変更届け]にて行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照ください。

都留文科大学ホームページ URL : <http://www.tsuru.ac.jp>
(2)ホームページ上にて氏名・住所等変更届けを行う際には、次のユーザー ID 並びにパスワードが必要となります。

パスワード : **tbdh2206**

(どちらも半角英数) ※同窓会会員以外による不正使

用がないよう、ユーザー ID・パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。

2 E-mailにて送信

E-mail : dousokai@tsuru.ac.jp

3 FAX・郵送

〒402-8555 山梨県都留市田原 3-8-1 都留文科大学同窓会 宛
TEL 0554-43-4341 内線 206 FAX 0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名(フリガナ)/旧姓 卒業年・学科	現住所/電話番号 勤務先名 勤務先住所/電話番号 勤務先の役職

※住所移転等で同窓会報がお手元に届かない場合があります。ありましたらご連絡ください。

ワンゲル50周年によせて —私たちのメッセージ—

高橋 賢 一

本年度我がワンダーフォーゲル部は、めでたく創部50周年を迎え、昨夏、記念事業を関係者の皆様の御高配を得て、母校で盛大に挙行することができました。この場をお借りして、今まで支えて下さった皆様に厚く御礼申し上げますと共に、この偉大なる歴史を作り上げ、継承して下さった諸先輩方に敬意を表するものであります。

50周年を期に今までOB会(学士山岳会)の中心で活躍されてこられた中瀬会長、今回の記念事業の企画運営に大きくご尽力下さった酒井前会長、北川、山中両氏等の諸先輩方は引退され、私たち第17代と前後の代がその重責を引き継ぐこととなりました。

私たちが都留の学生となったのは、共通一次試験の初年度、それまでの1期・2期の時代から、国公立大学複数受験ができなくなった大きな転換期で、全国屈指の高倍率大学として、都留文大の名が全国を席卷した記念すべき年でした。その影響もあってか、大学の雰囲気や学生の気質も大きく様変わりし、第一志望で入学してきた学生が殆どいない「敗者の大学」という陰口さえ生まれたほどです。

何のためにこの大学に来たのか、そんな自問自答の中から私たちは山に向かいました。地元の三ツ峠の岩山を攀じり、富士急行線と中央線を乗り継いで北アル

プスや南アルプス、八ヶ岳へと向かいました。そうして大人になっていったのです。「山」と都留の街の風土が私たちの現在を育ててくれたのです。

私たちが4年生の時(1982年)に不幸にも大きな遭難事故が2件立て続けに起こりました。香西由美さん(初教2年)と野口剛君(初教1年)という二人の尊い命が北アに散りました。あの時も太田堯学長を始めとする教職員の皆様、体育会を中心とする学友の皆様に本当にご迷惑をおかけし、また、数え切れない有形無形のサポートをいただきました。本当にありがとうございました。今思い返しても目頭が熱くなります。だからこそ私たちが次代を担わねばならないのだ、これが私たちのメッセージです。

記念式典の最初に行われた黙祷は「敗者」から山と都留での生活を通じて「生きる力」を得た私たちに失われたものの尊さと喪失感、若さという未熟さと溢れるほどの情熱を思い起こさせてくれました。

登山を通じて河口湖から世界に存在感を発信されている70代のエベレストサミッターの渡邊玉枝先輩の講演は私たちに都留で学んだ者の誇りを再認識させて下さいました。

学食をお借りしての懇親会も楽しいものでした。プレハブに土間の学食が超近代的な本部棟に変わったのは、私たちが3年生の時でしたが、まさかそこで杯を酌み交わせるとは。「隔世の感」でした。

今後ともワンダーフォーゲル部及び学士山岳会の活動にご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



受付



懇親会



渡邊玉枝様



総会

比較文化学科創立20周年記念

前学科長 大辻 千恵子

比較文化学科は、1993(平成5)年に学際性・現代性・国際性を基本理念として設立された学科です。2012年度に創立20周年を迎え、2013年3月16日、記念のシンポジウムと式典を2号館で行うことができました。この間に設立当初からの教員も半数になり、新しいスタッフも加わっています。教員はそれぞれに、1期生から最近の卒業生まで、変わりつつも昔の面影を残した笑顔を見ながら、学生たちとの思い出や学科のこれまでの歩みをなつかしく思い起こしておられたことと思います。

学科では、20周年記念として学科教員全員による記念論集『せめぎあう記憶—歴史の再構築をめぐる比較文化論』を柏書房から上梓しました。本書は、創立10周年の記念論集『記憶の比較文化論—戦争・紛争と国民・ジェンダー・エスニシティ』(柏書房、2002年)に続いて、再び「記憶」を共通テーマとしています。日頃、授業や学内業務に追われる中で、この共同執筆を通して、同じテーマにむけて検討し合うという貴重な時間をもつことができました。機会があれば是非本書を手にとって頂き、比較文化研究のダイナミズムを感じとって頂ければ幸いです。

記念シンポジウムでは、本学を退職された笠原十九司先生と大門正克先生から本書について大変示唆に富む講評を頂き、各執筆者との簡単な質疑応答が行われました。フロアからの意見を聞く時間がとれなかったことが、少し残念でした。

記念式典では加藤祐三学長と西室陽一理事長より祝辞を賜りました。大学を取り巻く状況は厳しいですが、学科のカリキュラムもより学際的且つ地域横断的になり、共生社会の構築という視点も明確になりました。懇親会で、卒業生のみなさんが小学校教員や声楽家など幅広い職種に就かれていること、威勢のよい近況報告、比較文化学科で学んだことが卒業後大いに役立っているなど、心強い発言を聞くことができ、教員一同、大いに励まされました。



表紙(大学風景 本部棟)
写真提供 浅川 博氏